

## 夏休み市民連句会

令和三年八月十九日

於 桃園集会所

猛暑、コロナ禍の中でしたが、密を避け市民連句会として広く市民の皆様を対象とした連句会を開催いたしました。

宮澤次男様を捌にお招きし、参加者十二名が三座に分かれて半歌仙を巻きました。次年度はコロナ禍が収まり、多くの市民の皆様にご参加いただけるようお願い申し上げます。



## 半歌仙「かなかなの」の巻

捌 宮澤 次男

かなかなの声鎮まりて宗祇墓所 宮澤 次男  
 甕の上に架かる名月 室伏 満晴  
 芸術祭子の大作を自慢げに 賀茂 博美  
 あふれる笑顔集う庭先 窪田 浩晃  
 手拭でねじり鉢巻きかき氷 〃  
 つい腰下ろす片陰の石 満晴  
 風揺する絵馬にあまたの願いあり 〃  
 振り向きさまに愛の告白 博美  
 イタリアへ新婚旅行反故となり 満晴  
 ワイン飲み過ぎ救急車呼ぶ 浩晃  
 夢つなく延期か否かI O C 〃  
 たゆまぬ努力日々の精進 博美  
 月凍てる屋台の椅子を横に見て 浩晃  
 パパのサンタはみやげ忘れる 次男  
 伺い猫は足音も無く膝の上 満晴  
 ディスタクジョッキィ齧るドーナツ 〃  
 校門を潜る生徒に花吹雪 博美  
 富士の裾野に霞棚引く 浩晃

## 半歌仙「芋畑」の巻

捌 土屋 日菜

園児らが大小競う芋畑 堀井 弘由  
 笑顔の風に鬼やんま乗り 桃井 伴子  
 峠より七色の街月を背に 井上 輝夫  
 乗り合いバスは一日一便 土屋 日菜  
 湖の香ともめ負いつつ観覧車 伴子  
 サマードレスでフラの所作舞う 弘由  
 風鈴にヤシの木描く帰国子女 日菜  
 故郷の味空路到着 輝夫  
 髪染めて念入り化粧技のもと 弘由  
 肩にもたれて「エルガー」を聴く 伴子  
 力士連土俵は熱く無観客 輝夫  
 アマビエ朱印求め三密 日菜  
 月冴えて微分積分すらすらと 伴子  
 サンタクロスもう来ないのね 弘由  
 世にエール長崎の鐘小関曲 日菜  
 恩師惚びて友と一献 輝夫  
 花の滝流れに沿って動画撮る 弘由  
 吾子誕生のうらかな朝 伴子

## 半歌仙「かなかなや」の巻

捌 勝又 丘女

かなかなや富士の裾野の蕎麦処 勝又 丘女  
 白き萩咲く夕暮れの月 水口 英男  
 芸術祭学ぶ学童服やかに 水野 森雄  
 コーヒー脇に単行本読む 佐野 仙由  
 縁側で昼寝の猫の愛おしく 英男  
 汗をかきかき氷屋の列 森雄  
 水鉄砲孫と興じる芝の庭 仙由  
 道行く人に声掛けられて 英男  
 和装した君の姿に惚れました 森雄  
 夢の中では私二十歳で 仙由  
 コロナ禍で行ったつもり地図の旅 英男  
 辻の地蔵の赤き前垂れ 森雄  
 月冴えてホルンの響き聞こえ来る 仙由  
 凍てる夜汽車の窓を拭いて 英男  
 多発する自然災害治まれと 森雄  
 五輪の聖火絆深まる 仙由  
 花ふぶき湧玉池の水鏡 丘女  
 前に後ろに胡蝶飛び交う 森雄